

支部長あいさつ

今年も大変な夏となりましたが、会員の皆様にはいかがお過ごしでしょうか。

ご承知のように、本年度は、私自身が在外研究でイタリアに滞在しており、野村誠二先生に支部長代行を、佐藤洋一先生には引き続き支部長補佐の仕事を務めていただいております。距離的には離れているものの、今は ZOOM もありますので、必要に応じて適宜会議をもち、支部運営については緊密に連絡しております。

欧州では、近年まれに見る熱波が押し寄せており、午後になると外出することそのものが危険な日差しです（シエスタの本当の意味、理解しました）。

一方日本では、7月の参院選、それに伴う大事件や、その後の猛暑や台風など、さらに厳しい状況となっているのではないかと危惧しております。

コロナに関しては、日本では現在も様々な懸念があるようですが、ここイタリアでは、私が4月に来てから様々な規制が緩和され、「コロナとの共存」を身を持って感じます。今回は、私がベネチア大学（Ca' Foscari University）で在外研究させていただいている機会を活かし、舞台芸術におけるコロナ対応の違いについて、私のホスト・プロフェッサーである、ベネチア大学の Rupert 教授よりお話いただきます。

会員の発表といたしましては戸田先生、そしてはや恒例となりました支部長ミニコーナーでは、新しく入会くださった本田様と、小林理事長自らお話しいただくことをお願いしました。最近、新規のメンバーがたくさん入会してくださっており、本学会の歴史や研究動向をシェアするための良い機会と考えたからです。

詳しいスケジュールは以下をご覧ください。

今回の研究会も、コロナ対応のためオンラインとなってしまいましたが、研究会後はオンライン懇親会を企画しております。お忙しい時期とは思いますが、万障お繰り合わせの上、ご出席下さいませ。

前回同様、当学会または今回の発表にご興味をお持ちのお知り合いがいらっしゃいましたら、これを機会に是非お誘いください。（下記参照）。

皆様と支部会でお会いできるのを楽しみにしております。

関東支部長 藤尾美佐

<ZOOM 研究会ご参加の際の注意点>

2022年9月24日（土） 14時30分から（ZOOM によるオンライン開催）

会員の皆様からのご紹介がありましたら、お知り合いの方に体験参加いただくことも大歓迎です。是非、お声がけください。その際は、当日のスムーズな運用のため、以下の3名のメールアドレスに、事前出席者のお名前をお知らせいただければ幸いです。

支部長 藤尾美佐 misa_f@toyo.jp
支部長代行 野村誠二 seijinomura@nifty.com
支部長補佐 佐藤洋一 sato108@toyo.jp

ZOOM には、マイクをオフにしてお入りください。また、万が一のことを考えまして、当日録画させていただきますので、事前にご了承くださいませ。(そのため、ビデオのオン・オフも個々にご判断いただければ幸いです)。これは公開目的ではなく、滞りなく研究会が終わった際には、すぐに消去する予定です。ただし、学会の PR のため、2、3 分の動画を編集する可能性もあります。その際には、必ずご本人に事前の同意を伺いますので、同意なく画像が残ることなどは一切ありません。

ZOOM の使用にご質問がある場合は、上記、佐藤洋一先生までお問い合わせください。
多くの方のご参加、心よりお待ちしております。

2022 年 9 月 第 117 回関東支部研究会報告：研究テーマと発表内容

日程： 2022 年 9 月 24 日 (土)

会場： Zoom によるオンライン研究会 午後 2 時 30 分開始 午後 6 時終了 (予定)

午後 2:30 ~2:40 支部長挨拶および事務局からの報告

午後 2:40 ~3:25 発表 1 (研究発表)

発表者： 戸田博之先生 (Office AH(オフィス エイ・エイチ))

題目： オンラインツール活用による授業の双方向性向上の試み

要旨： コロナ禍に入ってから、大学の授業のほとんどがオンライン授業に移行した。そのような環境下、対面授業に比べて知識やノウハウの伝達が十分にできるかがもちろん教員にとっては大きな課題となった。他方、今ひとつの大きな課題として浮かび上がってきたのは、教員と学生が別々の空間にいることやいわゆる「カメラオフ」での受講が多いことなどに起因する学生の参加状況の把握の難しさであった。本発表では、この参加状況の把握を十分に行うのみならず、対面授業と比べても授業の双方向性を向上させるために行った数々のオンラインツールの活用事例を紹介し、残存した課題だけではなく、オンラインツールを使うことによる授業の新たな方向性についても伝えていきたい。また、本発表を機会に、オンラインツール活用に関わる研究者間の情報交換のきっかけともしたい。

午後 3:25 ~3:40 新入会員のご紹介

午後 3:40 ~4:00: ミニコーナー1 (トピックとしてのミニ情報の紹介)

発表者： 本田 健様 (東京センチュリー株式会社 上席参与)

題目： 日本におけるリース会社の構造改革・成長戦略について～

「業界最大手の一社である東京センチュリー(株)の多角化・国際化事例から見た成長戦略について」

要 旨： 主力商品であったファイナンス・リースが、リース会計の改正によりそれまでのオフバランス商品からオンバランスされたことにより、マーケット規模が僅か3年で7兆円から一気に4兆円まで急減。その様な厳しい経営環境の中で、具体的にどの様に多角化・国際化を推進してきたのか、直近約10年の成長戦略の軌跡を振り返る。

午後4:00～4:20 ミニコーナー2（JBCAでの研究動向の変遷についてのまとめ）

発表者： 小林猛久先生（和光大学経済経営学部）（JBCA 理事長）

題 目： 国際ビジネスコミュニケーション学会における研究内容の変遷と特徴

論 旨： 国際ビジネスコミュニケーション学会（旧 日本商業英語学会）は国際取引および国際経営におけるコミュニケーションの研究者の集団で、1934年の『旧日本商業英語学会』発足に始まる80年以上の歴史を持った学会です。2002年に日本商業英語学会から国際ビジネスコミュニケーション学会に名称変更を行いました。それまでに25年以上の議論が行われていたと伺っています。

創設当初の研究主題は、ビジネスレター（貿易通信文・商業英語）の作法や効率的な書き方、インコタームスの研究などでありました。その後、ビジネスのグローバル化やインターネットを始めとする通信手段の技術革新により、国際ビジネスの取引に関する契約やビジネスレターの研究に加えて、異文化コミュニケーションやマーケティング、金融など幅広い分野におけるビジネスコミュニケーションの研究も主学会の主要な研究テーマとして取り組まれるようになりました。つまり、（ビジネス）英語や国際ビジネスに関する制度研究そのものだけではなく、それらと様々な場面におけるビジネスコミュニケーションとの関連を調査・研究する必要性が高まって来たのです。

今回の発表では、足立先生、林田先生により、日本経済学会連合に発表された当学会の研究内容の変遷と特徴の分析二編を踏まえて、その後の傾向を加えた内容となります。JBCAへ最近ご入会された会員の皆様、今後当学会でどのような研究発表を進めて良いかお悩みの会員の皆様などに、何らかのお役に立てることができれば幸いです。

なお、本発表は、2017年にKABC（韓国ビジネスコミュニケーション学会）の慶州大会で発表した内容を利用していますので、それ以後の最新研究トレンドは網羅できていませんことをご了承願います。

午後4:20～4:40 休憩（時間調整）

午後4:40～6:00 発表2（ゲスト・スピーカー）

発表者： Bonaventura RUPERTI 先生（ボナヴェントゥーラ・ルペルティ）

（ヴェネツィア、カ・フォスカリ大学 アジア・地中海アフリカ研究学科日本語 日本演劇教授）

題 目： 新型コロナウイルス禍のイタリア・ヨーロッパ・日本の対応の違いー舞台芸術を中心にー（発表言語：日本語）

要 旨： ヨーロッパ文明の発祥地は、ギリシアとイタリアです。舞台芸術の分野でも、日本のように、長い歴史と伝統を誇る（古代ギリシアと古代ローマの悲劇・喜劇、ルネッサンスの悲劇・喜劇

とコンメディア・デッラルテの仮面劇、各地方における方言演劇、発祥地と主流なるオペラ、楽劇、バレエとダンス、人形劇、近・現代演劇から最新の実験などの) イタリアの演劇は、コロナウイルス時代の緊急事態の中で今までの舞台芸術の豊かな活動をどのように考え直してきたのでしょうか。

本発表では、ヨーロッパ諸国と日本との比較をしながら、文化活動の産業、特に舞台芸術関係の仕事の人々、演劇人、アーティストと裏方はコロナ禍という苦境とどのように向き合ったか、距離を守り、接触を避けることを余儀なくされた世の中でどのように生きて、感じて、創作を続けてきたか、作り手と多数の享受者の共存によって(生で、身体で)創造されると同時に享受される舞台芸術はどのように変化してきたか、そしてこの臨界を越えてどのように変化していくかということについて考えたいと思います。

以上のジャンルからいくつか実例を挙げながら、報告したいと思います。

午後 6:00 ~ オンライン懇親会

前回支部会について

2022年4月16日(土)に行われました、第115回関東支部会(オンライン)の発表テーマ及び概要を報告致します。

*要旨は発表時のもの。

日程: 2022年4月16日(土)

会場: Zoomによるオンライン研究会 午後2時開始 午後5時30分終了(予定)

午後 2:00 ~2:10 支部長挨拶(野村支部長代行より藤尾支部長に代わり挨拶)

午後 2:10 ~3:00 発表1 (研究発表)

発表者: 蔵屋伸子先生 (東洋大学法学部、日本女子大学非常勤講師)

題目: 既存の英語テキストを利用したアクティブラーニング~ビジネス戦略利用の経営シミュレーション~

要旨: 本発表では、既存のテキストを利用した思考シミュレーションによるアクティブラーニングの実践を報告する。授業の一環として企業の協力を得て活動を行う経験は学生の学びに大いに寄与するが、実施に対してのハードルが高い。そこで、ここでは既存の英語テキスト『Global Leadership』(中谷・Smithers, 金星堂)を利用し、そこに紹介されているビジネス戦略を学ぶ英文読解の段階を経て、各ケースについて、経営者の視点から自分のビジネスへの適用を検討する活動を行い、その結果を英語でまとめさせた(ライティング)。これにより、英語を学ぶというより英語で学び英語を使う授業となり、また学生が経営を自分事として考える機会となった。

午後 3:00 ~3:50 発表2 (研究発表、発表は録画ビデオ、Q&Aはライブで行いました)

発表者: 井上嘉隆様 (SAP ジャパン株式会社 エンタープライズ・ビジネス営業本部 第二営業部長)

題目：日本の IT 業界と”グローバル人財”～デジタル技術を活用した、待ったなしの生産性向上～
要旨：かねてより、「グローバル人財」とはなにか、どうすれば育つのか、育つのに何年かかるのか、といったことに関心があった。講演ではまず、IBM、Deloitte、SAP の経験から、各日本法人の社員にみるグローバル人財像の違いを分析する。次に、日本企業において、どのようなシーンでグローバル人財が求められるか、またそれを育成するために各企業はどのようなことに取り組んでいるか、について、Deloitte 時代のコンサルティングプロジェクトで経験した事例を交えながら考察する。特に、企業の海外売上上の飛躍的な成長のために、中核を担う人材セグメントは中長期経営計画を立案した時点で、育成または採用、あるいは外部調達を行う計画もたてなければならない。このセグメントを「CWS グローバル人財=Critical Workforce Segment」と呼ぶこととし、こうした人財を戦略的にどう増やすか、外部リソースにどこまで頼るべきか、などの示唆をご紹介する。

午後 3:50 ～4:00 休憩

午後 4:00 ～4:30 ミニコーナー 1

発表者：野村誠二先生（東京富士大学大学院客員教授）

題目：PMI (Post Merger Integration) という観点からの社内コミュニケーションについて

概要：M&A（合併・買収）で企業買収を行った後に行われる組織や業務の統合を意味する PMI (Post Merger Integration) は、その後において、M&A の成果を存分に引き出す上で重要な過程の一つとなっている。2021 年 12 月 31 日付の『日本経済新聞』朝刊によれば、近時、M&A 事案は急速に増加し、コロナ禍にも関わらず 2021 年に日本企業が関わった M&A 件数は前年比 15%増の 4,280 件と過去最多で、M&A の取引金額は前年比 12%増の約 16.5 兆円に達している。このような状況下において、業歴の長い、純粋な国内企業がいきなり海外企業に買収され外資系企業になるというケースを取り上げ、PMI の過程で生じる社内コミュニケーションの問題について報告する。

午後 4:30 ～4:45 ミニコーナー 2（トピックとしてのミニ情報の紹介）

発表者：佐藤洋一先生（東洋大学経営学部准教授）

題目：デジコミシリーズその 1：知っておくと便利なプレゼン動画作成のツボ

要旨：本発表では、近年、学会発表のスタイルとして取り入れられつつある「プレゼン動画」の作成について、知っておくと役に立ついくつかのポイントを、実演形式で紹介していく。プレゼンの動画作成には、デジタル障壁がいくつか存在しており、研究者だけでなく、ビジネスパーソンも苦手意識を払拭できない場合が多い。そこで、本発表では、プレゼン動画の作成の際に、知っておくと便利な（=ストレスが軽減される）ポイントに絞って紹介する。本発表が、今後の研究・ビジネス活動をスムーズに進めていく一助となれば幸いである。

午後 4:45 ～5:15 ミニコーナー 3（トピックとしてのミニ情報の紹介）

発表者：後宮昌樹様（ビジネスコンサルタント）

題目：JBCA80 周年記念シンポジウム総括から見る新しいビジネスコミュニケーション

要旨：2021年9月開催のJBCA第80回全国大会記念オンライン・シンポジウムについてのまとめの報告を行います。また、当学会ホームページのリニューアルについても説明させていただきます。

午後 5:15 ～5:30 藤尾支部長挨拶

午後 5:30 ～ オンライン懇談会

会員出版物案内



著者 三宮優子・森本真理・藤尾美佐・中道キャサリン

書名 『京都伝統文化の英語表現事典』

出版社 丸善出版株式会社 (2022年7月)

*本学会関西支部会員の三宮先生、森本先生が執筆されています。また、私、藤尾も関東支部所属ですが、京都で生まれ育ったため、執筆に関わりました。

*会員の方の新刊情報があれば、お知らせください。

編集・発行 〒112-8606 東京都文京区白山 5-28-20
東洋大学 経営学部 藤尾美佐 研究室内
国際ビジネスコミュニケーション学会関東支部長 藤尾美佐
TEL 03-3945-7295 (直通) FAX 03-3945-7477 (教務課)
電子メール：misa.fujio@gmail.com / misa_f@toyo.jp
国際ビジネスコミュニケーション学会関東支部長代行 野村誠二
電子メール：sejynomura@nifty.com